

令和 5 年度社会福祉法人ないえ福祉会事業計画

事業方針

令和 4 年度についても新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けた一年となりました。職員、利用者ともに濃厚接触者や陽性者になるなどし、通所の休止や職員の不足などが連続する日々でした。また、10 月末から 11 月にかけてグループホームでクラスターが発生し対応に追われました。幸いにも利用者は軽症で全員が回復し、職員への感染もなく終息することができました。

コロナ禍で止まっていたこれまでの 3 年間は、利用者や職員にとって大きなものとなりました。制限されていた期間が長く、利用者の生活リズムや職員の経験値など思った以上の影響が残っていると感じます。令和 5 年度については、これらを少しずつ取り戻していくよう事業を進めていきます。

入所事業では、昨年引き続き、多床室の見直し等をより具体的に進め、建設から 27 年が経過し未改修となっている暖房配管の改修なども計画的に進めていきたいと思えます。

就労事業では、原材料費の高騰や設備の更新、就労移行では新規利用の獲得などが課題となっています。利用者の工賃に影響がないよう商品の価格改定、設備の入れ替え等を行なっていきたいと思えます。また、新規利用の獲得に向け関係機関との連携等にも力を入れていきます。

福祉関係の各事業所で人材確保、人材定着が大きな課題となっています。ここ数年は、新卒者の応募もなく年々人材の確保が難しくなっています。人材確保のための新たな取り組みや職員が働きやすい環境を作るため、業務効率化や省力化にも力を入れ、人材の確保や定着に繋げていきたいと思えます。

中・長期計画

(1) 入所事業

- ・業務省力化に向けた I C T 技術等の調査や導入
- ・暖房設備の更新
- ・経過措置期間である多床室の改修とナースコールの設置に向けた調査、準備
- ・地域交流ホームの改修工事に向けた検討
- ・入所施設建て替えに向けた積立
- ・公用車の計画的な更新

(2) 就労事業

- ・業務用洗濯機の入替え
- ・インボイス制度開始に向けた準備
- ・就労移行支援新規利用者の募集
- ・新たに創設される就労選択支援サービスの情報収集
- ・利用者の高齢化を踏まえた事業の検討

(3) 共同生活援助事業

- ・フビ屋根のメンテナンス（塗装、修繕）
- ・公用車の計画的な更新（赤い羽根共同募金 助成事業申請中）
- ・各ホームの災害等への対策
- ・日中サービス支援型共同生活援助事業の情報収集、調査

(4) 居宅介護事業

- ・新規利用者募集、ニーズ調査
- ・共同生活援助事業との連携強化
- ・居宅介護事業の広報活動、意向調査等
- ・公用車の計画的な更新

具体的事業

1. ハード面の事業について

本体施設の設備面やグループホームのメンテナンス等、事業ごとに必要な修繕や改修等を計画的に行っていききたいと思います。また、引き続き感染対策や災害等に強い施設づくりを目指し、利用者が安心して生活できるよう環境の整備を行っていききたいと思います。

- ・各グループホームのメンテナンス
- ・各作業場等のメンテナンス
- ・入所施設の個室化、設備等の見直し
- ・公用車の計画的な更新

2. ソフト面の事業について

職員の処遇向上や働きやすい環境づくりをするため就業規則の見直しや業務効率化・省力化などの取組を引き続き行います。また、人材確保に向け、他の法人の工夫や取り組みなどの情報収集や調査も行っていきたいと思います。

- ・賃金改善のため処遇改善加算の取得
- ・適切な労働時間の管理と管理方法の効率化
- ・職員の負担軽減、業務効率化を目的とした介護ロボット等の導入検討
- ・新卒者確保に向けて奨学金制度等の調査
- ・職員のスキルアップのための他事業所との職員交流

3. 日中活動系事業について

令和5年度も就労継続支援B型事業、就労移行事業、就労定着事業を継続していきます。就労継続B型事業は、42名でのスタートです。令和5年度は、利用者工賃の安定を目指し、社会の動きに合わせて活動の範囲を広げていききたいと思います。昨年度椎茸ハウス二棟の張り替え工事が終了し、今年度は光熱費の削減と収穫量の安定に期待しているところです。また、10月のインボイス制度の開始に向けての準備もすすめていきます。

就労移行事業では、令和4年度1名が就職し、令和5年度は利用2年目の方と、コロナ感染予防のため職場実習ができず、特例で利用延長4年目を迎える方、さらに新規ご利用

者1名を加えた3名でのスタートとなります。特別支援学校を卒業しても就労移行を利用する方が少ないことに加え、小さな町なので就職先の開拓もなかなか厳しい状況ではありますが、就職を目指し今年も積極的に活動していきます。喫茶みみずくでは原材料費や光熱費の高騰が続いており、商品の価格の見直しをしながらも、すまっしゅの情報発信地として工夫しながら営業してまいります。引き続き、新規ご利用者を募集しています。

就労定着事業の利用者は7名です。離職者は出ていません。仕事が継続できるよう連携してサポートしていきます。

ハード面では、年度末に洗濯作業の柱である洗濯機が壊れ、古い製品のため基板の取り替えもできないとのことで、入れ替えの準備をすすめています。

生活介護では、令和5年度利用定員40名に対して45名の利用となります。

昨年は4月に利用者1名が病気で亡くなり、6月には1名が病気の進行で他の事業所へ移動しています。また、単身生活が困難となった利用者1名を受け入れています。コロナ禍の3年間は、通所事業の休止や分散通所など大きな影響を受けながらの活動となりました。これまでは通常での交流が難しかった小学校との「ジャガイモプロジェクト」も通常通りの交流ができるよう準備等を進めていきたいと思えます。また、昨年、道協会のみんなアートでは、ちぎり絵が入選しました。創作活動についても力を入れていきたいと思えます。マスクの着用が難しく、高齢の重症化リスクのある方も利用されているため、一定の感染対策は維持しつつ、健康活動や余暇活動等を行なっていきたいと思えます。

4. 施設入所支援事業について

入所事業については、入所定員40名に対して現在37名となっています。昨年度は、多床室の改修についてや活動の見直し等を内部の会議で検討してきましたが、コロナの影響で継続して検討することが難しく具体的な見直しまでは至っていません。今年度は、入所を希望されている利用者もいるため、より具体的に進むよう内部の会議や関係機関との調整などを行ってきたいと思えます。

5. 居宅系事業について

①共同生活援助事業

共同生活援助事業は、3月に雨竜高等養護学校の卒業生1名を迎え、42名（満室）の入居者で新年度を迎えます。

高齢化に、利用するサービスの変更が必要となるケースや大きな怪我、死別と活動の状況は一年一年変化します。不安が大きくなり、コロナ禍も相まって活動も小さく小さくという数年を過ごしていますが、別れもあれば、飛躍したい若者達との出会いもあるので、個々のニーズに合わせた生活が送られるようにチームで工夫をしながらサポートしていきたいと思えます。

昨年は重度障害者支援加算が取得できるように強度行動障害者養成研修への参加をすすめ、報酬につなげています。引き続きスキルを高められるよう、難しさを感じる支援こそよく話し合い、研修受講者を増やしつつ勉強会なども開催していきたいと思えます。

ハード面は、今年も建物のメンテナンスが主となります。入居者が安心し、長く生活が

できるように計画的な整備に努めて参ります。車両については、昨年新車一台を購入しましたが、今年度も赤い羽根共同募金施設活動支援事業（車両整備）へ申請し入れ替えを検討しています。新車を除く二台は購入から10年を経過し走行距離も12万km、18万kmとなり入替への準備をしていきます。

高齢化、重度化に伴って職員配置基準も上がりますが、相変わらず求人には反応がなく、緊張は続いています。賃金の値上げにより扶養内で働く非常勤職員の勤務時間を短くせざるを得ない状況もあり人員確保に心配は尽きません。高齢の職員も多く、一日一日励まし合いながら、やりがいのある仕事、楽しい職場を目指して皆で頑張っていきます。

②短期入所事業

短期入所事業は、前年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響で稼働率は低くなっています。4年度については、単身生活を続けていた卒園者が病気の進行により生活が難しくなり、一時的に短期入所を利用しています。また、現在、両親が亡くなり単身生活となっている利用者の受け入れを進めているところです。これまでと同様に地域で生活をする利用者や在宅の利用者のセーフティーネットとしての役割を果たしていきたいと思いません。

③居宅介護事業

居宅介護事業は経営改善を目標に事業を進め、コロナ禍の影響を受けながらも何とか成果を上げております。

しかしながら、高齢化で定期的に利用していただいた利用者の単身生活が難しくなり、サービスを変更して、居宅介護を利用しなくなるケースも増えており、新規利用の獲得が課題です。利用人数によって算定できなくなる加算もあるので、単発利用者ではなく定期的に利用していただける利用者を見つけることが望ましい状況と、安定したサービス提供ができるようにと慎重になってしまう傾向にあり、更には地域特性もあって、行き詰まりを感じることがあります。各関係機関と連携しながら、地域の声を拾っていける事業所でありたいと思いつつ、背伸びせずに進めて参りたいと思いません。

また、物価の高騰があり、既存の料金設定では見合わないオプション料金（ガソリン代）等は見直して、時代の流れに対応していくことも必要と感じています。

ハード面では、事業所の車両の入替について引き続き検討していきます。昨年度、故障があり一台は買い換えましたが、残る一台も走行距離は20万km（軽自動車）となり、有償運送車両であることから計画的に入れ替えていきたいと考えます。車輛については、高齢化、重度化に対応できるよう、福祉（車椅子）車輛の購入を検討しています。

小さく小さく活動するしかなかった数年間でしたが、世の中の明るい兆しに、利用者の皆様が心弾ませている様子を目にして、新時代を感じる今日です。豊かな日々が送れるようにと願い、個々の思いに寄り添ってサポートしていきたいと思いません。